

Graduation Policy (GP)	
記入者氏名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	教育学部
学科・専攻等名	総合文化教育課程
コース等名	国際文化コース
細分名	
教育学部の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
学校教育および社会のさまざまな分野において教育の素養をもって貢献できる人材の養成を目的とする。	
教育学部の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と教育に関わる事象を、問題意識をもって思考、調査、分析することができる。 2. 自らの思考、調査、分析の結果を適切な方法で表現することができる。 3. 自らの専門において習得した知識や能力を、実践に活用することができる。 	
総合文化教育課程の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際化が急速に進展するなかで、国際社会において信頼され、国際社会のなかで活躍できる「国際人」を育成する。 2. 多様な文化と高度に進展する社会に対応して、地域文化や言語文化、芸術、メディアを通じた表現を学んで、教育や社会の幅広い場面で活動する素地を養う。 	
総合文化教育課程の Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分と異なる文化・社会を多面的、総合的に考え、異文化理解や交流を積極的に進め、環境問題にも関心を持ち、国際社会のさまざまな場面で活躍ができる。 2. 多様な文化と高度に進展する社会に対応して、地域文化や言語文化、芸術、メディアを通じた表現を学んで、教育や社会の幅広い場面で活動する素地を備えている。 	
国際文化コースの教育目的（具体的に記述・箇条書き）	
国際化が急速に進展するなかで、外国語コミュニケーション能力を身につけ、自分とは異なる文化・社会についての理解を深め、地球環境問題にも関心を持ち、国際社会のさまざまな場面で活躍できる「国際人」を育成する。	
国際文化コースの Graduation Policy（具体的に記述・箇条書き）	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語はもちろん、その他のヨーロッパ、アジア、アフリカの言語を用いてコミュニケーションをすることができる。 2. 日本および海外の文化・社会について、多面的・総合的に理解することができる。 3. 地球環境問題や人間と自然の関係のあり方について、多面的・総合的に理解することができる。 4. 文献、インターネット、フィールドワークなどのさまざまな手段を用いて情報を収集することができる。 5. 収集した情報を整理・分析し、それをもとに自分の意見を考え、さらにそれを論文やレポート、もしくは口頭での確に発表することができる。 	